

H29 妙高西条農園たより

NO. 5

平成29年8月21日 (8月号)

今年の新潟の梅雨明けは超迷走した台風5号の影響もあってか例年より遅れ8月に入ってからとなっていました。関東東京でも梅雨明け後、雨の降った日が20日間もつづき日照時間が少なく野菜等の生育が遅れ品不足が生じているとのニュースが報道されています。

新潟でも東京ほどではありませんが、梅雨明け後はくもりや雨の蒸し暑い日がつづいていますが、当農園の圃場では、出穂の始まりが昨年同様7月末に確認され8月上旬には、ほぼ全ての出穂そろいが確認されました。

天候不純の中でも生育が遅れないで順調にしているのには、永年つづけている植物の生育活性剤(HB-101)の圃場への点滴投入の効果があつてのことと思つています。

HB-101の1,000倍液を試験圃場の水口から7月下旬～8月中旬にかけ3回点滴投入を実施



HB-101の他、先月号で紹介しました同じく植物の生育活性剤(ウツンバイオスター)の投入は元より、農園経営を実質的に引き継いだ15年前よりお米の食味向上にこだわった栽培のため、圃場へのミネラル土壌改良剤や有機肥料のすき込みを行ってきましたので、その効果が悪条件の中でも順調に生育していることに大きく関わっているのではと思っています。

7月末の出穂の始まり



8月19日定点観測



8月20日の生育状況



今年も恒例の畔草アート「**肝太のミネラル米**」が完成しました。朝夕の健康作りのためのジョギング、散歩等の市民の皆様方から応援をいただいたの完成です。



収穫まであと1ヶ月ほどの圃場管理となりますが、この時期心配されるのは、**カメムシによる斑点米対策**です。これは、畔草等に生息していたカメムシ等が稲の出穂を待つて圃場に侵入し、未熟の稲穂から養分を吸い取ることで、結果としてお米に黒い斑点が残り、品質の低下となってしまいます。対策としては、7月～8月の畔除草をコマ目に行い、カメムシの生息箇所を排除するため雑草を伸ばさないようにすることが一番良いとされていますが、真夏の炎天下での除草作業は、熱中症を予防しながらのキツイ作業です。

妙高西条農園および有限会社肝太の発足15周年記念

行事を実施しました。

当農園を実質的に親父から引き継ぎ、ミネラル米コシヒカリのブランドで販売出来たことと、メグスリノキのお茶、煎餅、うどん等を製造販売し両方15年を迎えたことから、記念式典及び貸切イベント列車で、糸魚川市の大火災復興を支援してきました。(詳細は別紙)

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755
妙高西条農園長 池田博子
☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908
URL : <http://www.kanta.jp> E-mail : ikedata@kanta.jp
当農園へのご意見、感想をお待ちしています。